

# 琉球弧の祭祀と行事【四】

沖縄本島と周辺離島編 写真・文／木原盛夫



## 琉球弧の祭祀と行事【四】

沖縄本島と周辺離島編 写真・文／木原盛夫

## CONTENTS

- 米須のウシデーク・・・3P
- 真志喜大綱引き・・・11P
- 糸満大綱引・・・16P
- 真栄里大綱引き・・・23P
- 与那原大綱曳・・・31P
- 那覇大綱挽・・・41P
- 城間松明大綱引・・・50P
- 泡瀬大綱引き・・・60P
- 伊江島の村踊り・・・68P
- カジマヤー・・・74P
- ムーチャー・・・89P
- 粟国島のマースヤー・・・92P
- 首里城・新春の宴・・・120P
- 首里城・中秋の宴・・・125P
- 首里城・冊封使行列、冊封儀式・・・131P
- 新春北部大闘牛大会・・・136P
- ビージャーオーラサイ・・・140P



【米須のウシデーク】 2013年9月19日撮影

旧暦8月15日は、十五夜。この日、沖縄では各地で行事が開催されており、糸満市字米須では、ウシデークと獅子舞が行われた。

15時45分に、バスで米須農協前に到着。獅子舞の行われる神屋へ歩いて行くと、途中で紫のサージを頭に巻いた女性たちが太鼓を叩いていた。聞けば、女性たちが立っている場所は嘗てのイリ（西）のアシビナーで、こうして太鼓を叩いて集合を呼びかけているとの事だった。



4P上は、米須の獅子加那志。梯梧（でいご）を彫って作られている。4P下は、神屋の庭での獅子舞。銅鑼を叩く男性に先導されて3回まわる。この後、女性たちがウシデークを踊った。5Pは、神屋の近くにある拝所へ移動して行われたウシデーク。



神屋の近くの拝所で女性たちはイリ（西）とアガリ（東）に別れて、この後、それぞれの拝所をまわる。

6Pは、イリのアシビナーでの獅子舞。イリのアシビナーからコミュニティーセンターの広場へ移動し、また獅子舞が行われた（7P）。



8Pは、コミュニティーセンターでのウシデーク。9Pは、ヌル殿内へ向かう獅子加那志。10P上は、ヌル殿内での獅子舞。10P下は、神屋での記念写真。

8





【真志喜大綱引き】 2012年7月29日撮影

宜野湾市真志喜の大綱引きは、旧暦6月15日に近い新暦7月の日曜日に開催される。

海側集落の前村渠（メンダカリ）と山側の後村渠（クシダカリ）に分かれて綱を引く。

吹奏楽部のパレード、子供たちのエイサー、婦人方のフラダンス等が披露された後、旗頭をぶつけるガーエー（氣勢を競う）が行われた。そして雌綱と雄綱を空中でぶつけ合う、真志喜大綱引きの特徴であるアギエー（上げ合い）が繰り広げられる。



R04-008





沖縄の綱引きは、雌綱の頭（輪っか）に雄綱の頭を入れ、カヌチ棒と呼ばれる大きな棒を通して合体させる。



雌と雄の綱を結合させることは生殖を意味し、それは稲の分けつを促す信仰だと考えられたり、子孫繁栄の行事だともいわれている。



【糸満大綱引】 2012年9月30日撮影

糸満大綱引は、旧暦の8月15日に行われる。

白銀堂の前から糸満ロータリーの間が綱引き会場となる。会場に着くと、朝から作られていた大綱が完成したところだった。

綱引き自体は17時からだが、糸満小学校の校庭で13時半から道ズネーの出発式、そして14時半から白銀堂までの道ズネー（練り歩き）が行われる。上の写真は、完成した大綱。17P上は、出発式。17P下は、道ズネー。





道ズネーは約2時間半。旗頭、子供たちや青年団、婦人部の踊り手が参加し、小学校から白銀堂まで2キロ程の距離を踊りながらパレードする（18P）。



木に括り付けられていたカスチ棒が外された。糸溝の大綱は、直径約1.5m、雄雌合計約180m、総重量約10トン。綱を結合させるカスチ棒も特大だ（19P）。



カヌチ棒で綱が結合されると、南北両陣営から支度（シタク）と呼ばれる伝説上の人物に扮した若者が戸板に乗せられて登場する（20-21P）。

写真の左が、マカビチャーンに扮した北組みの支度。右が、イチマンマギーに扮した南組みの支度。支度のガーエーの後、いよいよ大綱が引かれる。



【真栄里大綱引き】 2012年10月1日撮影

糸満市真栄里の大綱引きは、十五夜の翌日、旧暦9月16日に開催される。

綱引きは集落の中央にあるメーミチ広場で11時半から行われるが、一時間程前に到着すると、どこからか賑やかな音が聴こえて来た。近くの人に尋ねるとイリの元家（ムートゥーヤー）からだと言う。場所を教えてもらい歩いて行くと、集落の上の方に元家があり道ズネーの準備が行われていた。

上の写真が、イリの元家。





24P上は、元家を出発するイリ組み。  
24P下は、道ズネーを終えてメーミチ  
広場に到着したアガリ組み。25Pは旗  
頭と、男たちのガーエー。

26-27Pは、支度を綱の上に乗せて会場  
に入ってくるイリの雄綱。この後、イ  
リとアガリが交互に棒術や獅子舞など  
の演舞を行った後、綱引きが始まる。







網引きの網は縁起物として切って持ち帰れる事も多いが、この後、城間の網引きでもう一度使われる事になっているため両陣営に持ち帰られ、グルグル巻きにしてビニールを被せて保管された。網引きの後、夕方にもう一度道ズネーと演舞があり、エイサーが行われた。



【与那原大綱曳】 2013年8月4日撮影。

沖縄本島南部にある与那原の大綱曳き。那覇、糸満と並ぶ3大大綱引きとして知られ、その歴史は400年以上という。嘗ては旧暦6月26日の開催だったが、戦後は26日以降の日曜に行われている。16時から道ジュネーが始まるというので両陣営に行くと離綱、雄綱が待機していた(32P)。イリ、アガリ双方が旗頭を先頭に道ジュネーを行い、交通規制がかけられた国道331号で、旗頭演舞と女性たちのメーモーイ(前舞)が行われた(33P)。







34-35Pは、大勢の支度を乗せて会場に到着したイリの雌網。36Pは、アガリの雄網。  
網曳きの開始は17時からとなっていたが、少し前に雌網・雄網の頭を六尺棒で持ち上げ、雌網の頭に雄網を入れ、カヌチ棒で固定。カヌチ棒が入った瞬間に、網曳きが始まった。

and more...